



# 信濃GS応援 縁日イベント



「ストラックアウト」を楽しむ子どもたち

## 長野・第一学院高生徒ら 中野のホーム戦に合わせて

中野市営球場で4日に行われた信濃グランセローズ対栃木ゴールデンブレーブスの試合に合わせて、広域通信制の第一学院高校長野キャンパス（長野市）の生徒たちが、球場の入り口付近で縁日イベントを開いた。手作りのゲームなどの催しが子どもから大人まで大勢の来場者に喜ばれ、生徒たちは「継続した取り組みにしたい」と手応えを感じていた。

### 手作りゲーム 順番待ちも

信濃グランセローズの球団職員から依頼を受けて、地域のプロスポーツを盛り上げたいと初めて企画した。ボールを番号の付いた的に当てる「ストラックアウト」、ボディペイント、スパーボールすくいなどの3種類のコーナーを用意。厳しい暑さが続く中、試合開始の1時間前から開催した。

ストラックアウトは、信濃グランセローズのグッズが景品としてもらえることもあり、子どもたちが列をなす場面も。中野市延徳小学校3年の吉越莉土さん（9）は、信濃グランセローズの野球帽をかぶって挑戦し、グッズを手にした。「こういうイベントがあるともっと試合を見に来たくなる」と話した。

ボディペイントのコーナーでは、来場者が「推し」の選手の背番号や「ファイト」などのペイントを顔や手に描いてもらった。東京都中野区から訪れた畠山裕子さん（55）は「テンションが上がって応援に熱が入りそう」とうれしそう。

第一学院高2年の小林大斗さん（17）は「自分たちで一から作った物で笑顔になってもいい、本当によろしい。今後も信濃グランセローズの応援で何かやっていけたら」。同2年の滝沢由愛さん（16）は「野球の面白さに気づくことができた」と笑顔だった。小林普志美教諭（49）は「社会とつながりを実感できる取り組みとなった。今後も継続したい」と話した。